相鐵株式会社

茨城県日立市

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上　需要獲得　担い手確保

ものづくり　サービス

新たなビジネスモデル「図面丸ごと受注」
アスリート化／スタジアム化＝働き方改革

相鐵は、昭和39年3月の創業以来、茨城県日立市にて、鋼材加工を行ってきた。

日立市は、日立鉱山、日立製作所によって培われた「ものづくりの町」であり、鋼材の製缶、溶接や機械加工等を行う中小企業が集積する地域特性がある。

相鐵は、創業からの55年間で、鋼材の切断と曲げ加工を行う多種多様な機械設備を増強、同時に技術を蓄積して、ものづくりのスタートラインに立つ会社としての存在感を高めてきた。

● 所在地	茨城県日立市東多賀町5−19−10	● 設立	1971年
● 電話／FAX	0294−33−2005／0294−33−2632	● 資本金	3,000万円
● URL	http://www.soutetsu.jp/	● 従業員数	48人
● 代表者	代表取締役社長　三村 泰洋		

需要獲得

ものづくり

図面一式に対応する新たなビジネスモデル「図面丸ごと受注」

従来、鋼材加工業界では、部品図をお客様に支給していただき、その図面情報に基づき、切断等の加工を行うのが一般的な業務範囲であった。

そこから一歩先に進んで、相鐵では5年前から、全体図のバラシ作業から請け負い、すべての部品を一括して手配する「図面丸ごと受注」の取り組みをスタート。お客様が図面展開したり、部品図を仕分けして発注先ごとに分類したりする手間の削減に貢献している。

読売新聞 2015年12月24日

新しい取り組みとして新聞にも掲載された

モチベーションとブランドを高めるアスリート化／スタジアム化

「相鐵の仕事をスポーツに」をテーマとして、2014年の創業50周年を契機として、相鐵では社員のアスリート化と工場のスタジアム化をスタート。

工場内の5Sを土台として工場外壁にスタジアムサインを掲出したり、プロスポーツチームのようなロッカールームを整備したり、歩行距離や心拍数を計測するウエアラブル端末を社員が装着して活動量のデータを表示したり等、モチベーション、パフォーマンス、ブランドの向上につながる独自の仕組み作りを開始している。

事務所2階にある男性ロッカールーム

地域特性を活用したネットワークの構築「ものづくりの日立」

日本有数の企業城下町として知られる日立市が、いま変わりはじめている。大企業の生産拠点を中心としたこれまでのピラミッド型の事業体系が、世界的な産業構造の変化、人口減少の急速な進展によって、ぐらぐらと揺り動かされている。

そんな中、相鐵は、進取の気性に富んだ地域の中小企業と手をつなぎ、新しいネットワークを作り出すための取り組みをスタート。設計から材料の切断、曲げ、製缶、溶接、機械加工、塗装、現地据付等、地域として一貫した製造工程の構築を進めている。

本年4月にオープンするホームページ